

令和 6 年度

「運営に関する計画」

大阪市立瓜破東小学校

令和 7 年 2 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査や小学校学力経年調査の結果分析において、学力向上の課題として「基礎・基本的事項の理解と定着」「学習意欲の向上」「学習・生活習慣づくり」が挙げられる。また、学力と相関関係にある「自尊感情の育成」も重要である。
- 安定した学校生活を過ごすために、その基盤となる健康的な生活（体力づくり、食に関する指導、基本的生活習慣の確立）を保護者（家庭）と連携した取り組みを推進する。
- 集団生活を通して「規範意識」「社会性」「良好な人間関係（いじめの克服）」を育む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より10%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率（平均点）7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より10ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- 小学校経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より10ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は、学校の様子を学校便りや学年便り、ホームページなどで分かりやすく伝えている。」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。（経年 73.0%）
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。（経年 83.7%生活 81%）
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、78%以上にする。（経年 67.5%生活 59%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 33%以上にする。（経年 27.0%）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年前年度より 0.05 ポイント向上させる。（国語：4 年 - 2.1%・5 年 - 3.3%・6 年 - 0.2% 算数：4 年 - 1%・5 年 - 1.5%・6 年 ± 0%）
- 小学校経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。（経年 89.2%）
- 小学校経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。（経年 78.3%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。（経年 54.1%）
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 32%以上にする。（経年 27.0%生活 22%）
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。（経年 54.1%生活 29%）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- デジタル教材を活用した学習を週 1 回実施する。
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 50%以上にする。
- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。（経年 62.1%生活 72%）

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○全市共通項目「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、73.0%と目標を達成できなかった。いじめアンケートを全学年に年3回（各学期）学習者用端末で実施し早期発見に努め、いじめにあっていると答えた児童には担任が聞き取りを行い丁寧に対応している。不登校児童に関しては、オンライン学習ができるように担任が働きかけている。保護者が学校に行くことへの必要性を感じていなく学校だけの努力だけでは対応が難しい。

○「学校のきまりを守っている」は、経年83.7%、生活81%で目標の85%に僅かに届かなかった。本校は全体的に落ち着いており、学習規律も生活指導上の問題も少ない。児童の安全を確保し、安心して学校生活を過ごせるよう、学校のきまりを年1回程度見直しの検討を行うとともに児童指導だけでなく、保護者への啓発も継続していく。

○「自分にはよいところがある」は、経年67.5%、生活59%で目標の85%に届かなかった。今年度より【特別活動】の研究に取り組んでおり、学校生活の様々な場面で、児童が主体となるような場の設定をしており、児童が生き生きと活動している姿が多く見受けられるようになっていく。これらの場面をさらに充実させ、その中で児童の自尊感情をさらに高められるようにしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」については、27.0%で目標を達成できなかった。経年調査の国語科では、平均正答率対大阪市比は、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させることはできなかった。理科が好きかについては、89.2%であり、外国語が好きかについては、78.3%と共に目標の70%以上の結果であった。運動やスポーツをすることに関しては、学年ばらつきがあるものの経年54.1%、生活29%で65%以上にほど遠い結果であった。

○本校は、今年度より1年生から専科制を採り入れている。各教員が、児童の学力・運動能力の実態を把握し、個別最適化な学習を心掛け、日々授業力向上に努めている。そのため、数値目標はなかなか達成することはできないが、児童の学習・運動に対する意欲は確実に上がってきている。

○「がんばる先生支援」研究支援を受け、全市に本校の【特別活動】の取り組みについて報告することができた。今後も全教職員で児童主体の学校づくりに取り組んでいく。

【学びを支える教育環境の充実】

○デジタル教材を活用した学習を週1回実施するは、どの学年でもデジタル教科書等を有効活用している。

○「心の天気」の入力をルーティン化するように取り組んだり、各教科・領域において学習者用端末を積極的に活用したりすることができた。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は、88%で50%に達することができた。今後も学校現場における働き方改革を進めていく。

○「読書は好きですか」に肯定的に答える児童の割合は、経年62.1%、生活72%であった。教員の取り組みだけでなく、図書委員会の児童や図書ボランティアさんの活動等を効果的に活用し、児童が読書の楽しみを実感できるよう取り組みを継続していく。

○校内研修については、全員授業を実施し、すべてに講師を招き授業力向上に努めた。また、スクールアドバイザーの活用で若手教員の研修を深めることができた。

○今後も働き方改革を意識し、仕事の効率化を図りながら教材研究の時間を確保するとともに指導力を高める研修を工夫していく。

大阪市立瓜破東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・中学校） ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。（経年 73%） ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。（経年 83.7%生活 81%） ○小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、78%以上にする。（経年 67.5%生活 59%）	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向番号 1、安全・安心な教育環境の実現】 決まりを守って安全に気持ちよく学習したり生活したりできるように「生活・学習の約束」を全教職員で指導する。	B
指標 「生活・学習の約束」のふり返りを、学校生活アンケートの中で学期に 1 回行い、結果を指導に役立てる。	
取組内容②【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】 異学年とのふれあい活動の工夫と充実を図っていくために、高学年をリーダーにした縦割り活動に積極的に取り組んでいく。	A
指標 集会活動や学校行事などで、縦割り活動やペア学年活動を学期に 1 回以上行う。	

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

- ① 学校生活アンケートは予定通り学期に一度行った。「きまりを守る」についてのアンケート結果は6月と比較し、横ばいの81%。

「髪を染めない」「手鏡など学校に不必要なものを持って来ない」「登校時間を守る」といった学校のきまりがあることを認識したうえで、守ることができていない児童がおり、守らない児童は固定化してきている。

毎月の生活指導部会はなくなったが、毎週の職員打ち合わせで児童の実態交流を行ない、指導の在り方について教職員で話し合い、共通理解したうえで、全体指導、学級指導、個別指導、懇談時や「学校だより」等による保護者への啓発等を行ってきた。髪染めについては、対象児童の保護者の方の理解・協力が十分に得られず、後期も解消していない。

- ② 今年度より特別活動の研究を進め、児童会活動を例年以上に児童主体で、活発に行うことができた。

児童集会やうりひがまつり、全校遠足、たてわり読書、ペア学年活動など、異学年と交流する活動が工夫して行われた。また、4年生以上が委員会活動に参加することになり、異年齢交流がより図れるようになるなど、さまざまな場面で、異年齢がなかよく活動する様子や上級生らしい姿を見ることができた。

次年度に向けての改善点

- ① ・今後も職員打ち合わせで児童の実態を交流・共通理解し、児童一人ひとりに対するよりよい指導につなげていく。
 ・始業式や全校朝会など全児童が集まった場で、守られていない学校のきまりについて学校全体として共通確認し、指導していく。
 ・学校のきまりを「入学説明会」や「入学式」で保護者に知らせ、「ピアス・髪染めをさせない」「不要な持ち物を持たせない」などの学校のきまりを守るよう、家庭の協力を今まで以上に依頼する。
 ・保護者対応を管理職と連携して行っていく。
- ② ・児童会活動がより児童主体となるよう工夫するとともに、高学年としての自覚やリーダーシップを育成していく。
 ・たてわり児童集会の時間が1時間目の学習に食い込むことが多かった。8時30分会场集合などの工夫をし、時間内に終わる、より充実したものになるようにし、回数も増やしていく。

大阪市立瓜破東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を33%以上にする。（経年27.0%）</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。（国語：4年-2.1%・5年-3.3%・6年-0.2% 算数：4年-1%・5年-1.5%・6年±0%）</p> <p>○小学校経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（経年89.2%）</p> <p>○小学校経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（経年78.3%）</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。（経年54.1%）</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32%以上にする。（経年27.0%生活22%）</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。（経年54.1%生活29%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>授業研究会や指導力向上のための研修会を年間計画に基づいて実施し、研究授業後の協議会や研修会での議論を活発に行う。また、伝達講習会を行い、各教職員が研修した内容を、他の教職員に広める機会を設ける。</p> <hr/> <p>指標 年間計画に基づいて、授業研究を実施し、協議会の形式を工夫しながら、指導力向上のための研修に取り組み、すべての教員が年1回以上、自主的に授業公開を行う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>体育の授業で体力づくりの運動に積極的に取り組むだけでなく、体育学習カードを活用したり、運動週間を実施したりして、児童の日々の運動に対する意識を高めていく。</p> <hr/> <p>指標 学校生活アンケート「運動場で友だちと遊んだり、体を動かしたりすることができましたか」の項目について、「できた」・「だいたいできた」と答える児童の割合を70%以上にする。（生活60%）</p>	B

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

- ① 年間計画に基づいて授業研究会や研修会を実施することができた。全常勤教員が一人一授業の公開授業研究を実施し、若手教員は指導力向上のために「大阪市学力向上支援事業」においても毎学期の授業研究を実施し、研鑽を積むことができた。

今年度から「特別活動」を重点的に研究していくこととなり、毎月「うりひが研究の日」を設け、研究グループによるディスカッションを重ねることで、自主自律した「うりひがっこ」の育成に努めた。また、「大阪市がんばる先生支援事業」を活用して、特別活動研究部の全国大会・近畿大会に参加する等様々な校外研修に参加し視野を広げることで、校内での新たな取り組み（①学校行事と児童会活動の連携、②児童の主体性を育むクラブ活動の改善、③学級会の進め方を共有したことによる学級活動の深まり）を推進することができた。校外での研修後には伝達研修を工夫して行うことで、全教職員への共有が図られ指導力向上につなげることができた。さらに、「子どもも大人もチームうりひが～かがやけ！みんなが主人公～」をテーマに「がんばる先生支援事業」研究発表会を開催し、本校の「特別活動」の研究の取り組みを大阪市全体に報告した。

また、今年度は専科による指導制度（教科担任制）の拡充や新たな学年主任制度（チーム担任制、学年担任制）の導入により、チームティーチングを取り入れた授業、互いの授業参観に加え、校外研修に行きやすい体制が整えられたことで研修の機会が増え、多様な視点から指導したり、指導法について議論したりすることができた。

- ② 今年度は、全学年において体育専科教員を中心に複数名で体育科授業を実施したため、系統立てた指導ができた。専門的な知識を生かし、運動に必要な準備体操や体力づくりの運動を取り入れたり、学年に合わせた体育学習カードを必要に応じて活用したりすることで、児童の意欲を高めることができた。また、児童一人一人の能力や意欲に応じてスモールステップで指導することで、児童は自分の目標を意識しながら主体的に活動することができた。

休憩時間については、「うりチャレ」と題した様々な運動に親しめる場や用具を準備したり、「みんな遊び」の時間を設けたりすることで、積極的に体を動かして遊ぶ児童が増えた。また、運動月間（なわとび…ぴょんぴょんタイム、かけ足…らんらんタイム）では、全校あげて取り組むことで運動・体力づくりのきっかけになるよう努めた。

次年度に向けての改善点

- ① ・指導力向上のために、各教科・領域や「総合的読解力育成カリキュラム」の研修に積極的に参加し、伝達講習会を実施する。
 ・研究授業後は研究協議会もしくは意見交流会を設け、授業者は積極的に多様な意見やアドバイスを受けることで、指導力向上に努める。
 ・さらなる授業力向上を目指し、互いの授業参観・意見交流の機会を設け切磋琢磨する環境を整えるため、指導案作成にこだわらない研究・研修の在り方を検討する。
 ・「特別活動」の研究の深化を図る。
- ② ・すすんで運動に取り組みたくなるような体育科の授業・運動月間（春実施も検討）「うりチャレ」の内容の工夫や、学級ボールの数を増やす等環境の工夫を行う。
 ・休憩時間の外遊びを促し、楽しく健康的に運動できるように、児童が中心となって体力向上につながる取り組みを広げる。
 （例…スポーツ委員会と保健委員会でのコラボ企画、ペア学年での遊びタイム等）
 ・暑さや寒さが厳しい期間の運動環境の工夫について検討する。
 ・体育倉庫や体育用具の整理と安全管理に引き続き努める。

大阪市立瓜破東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校） ○デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。 ○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を50%以上にする。 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日50%以上にする。 ○小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。（経年62.1%生活72%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 ICT機器を活用し、児童に分かりやすい授業を構築するとともに児童が積極的にタブレットを活用できるようにする。 ----- 指標 デジタル教材を活用した学習を平均で週3回実施することにより、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が50%以上になるようにする。	B
取組内容②【基本的な方向番号7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】 授業研究会や指導力向上のための研修会を計画的に実施し、討議会や研修会での議論を活発に行う。また、伝達講習を通して必要な知識・技能を共有する。 ----- 指標 メンターを中心に若手研修を年間5回以上実施する。スクールアドバイザーを活用し指導力を高める。特別支援教育研修、人権に関する研修を校内で実施するとともに外部研修の伝達講習を必要に応じて実施する。	A
取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】 児童が興味関心をもつことができるような読書環境を整え、読書活動を活性化させていく。 ----- 指標 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。（経年62.1%生活72%）	B
取組内容④【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を75%以上にする。 ----- 指標 「ゆとりの日」（ノー残業デー）を週に1回設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。	B

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析
<p>① デジタル教科書や指導資料を大型テレビに投影し、わかりやすい授業づくりを進めた。タブレット端末は、こころの天気の入力・調べ学習を中心に、週3回以上効果的に活用できた。利用頻度については学級間で差があり、教員間の意識の差がないよう共通理解を図る必要がある。</p> <p>② 各教科研究部の先生方を招聘し、実りある授業研究が多く行われた。若手教員による研究授業では、スクール・アドバイザーの講師先生に指導案作成指導を行っていただき、授業や学級づくりに活かすかすことができた。共通理解が必要な内容については伝達研修で共有することができた。</p> <p>③ 図書館司書を中心に、読書活動の活性化のための取り組みを進めた。辞書引き大会やビブリオバトル、味見読書、たてわり読書等の取り組みを通して、児童が楽しんで読書へ向かう環境が整えられた。</p> <p>④ ゆとりの日や学校閉庁日は事前に行事計画に組み込まれ、計画的に実施できている。</p>
次年度に向けての改善点
<p>① ・「こころの天気」は、モーニング・ルーティンを掲示する等児童が習慣として入力できるようにする。 ・「ICT 機器の使用における到達目標」を意識しながら、プログラミングなど児童の習熟度を計画的に高める。</p> <p>② ・次年度も計画に沿って研究授業・研修を実施する。回数や討議会の持ち方等、検討が必要である。 ・若手の授業研究については、スクールアドバイザーの定期訪問を活用し、学期に1本ずつ実施する。 ・授業者と研究授業を参観した教員との意見交流を行う。</p> <p>③ ・読書を肯定的にとらえる児童は70%を超えたが、更なる読書環境の充実を図っていく必要がある。 ・学級文庫がなかなか活用されていないため、計画的に整備していく。 ・「読書の木」について記名をなくし、1年間で一人一枚は作成できるよう指導する。</p> <p>⑤ ・職場で落ち着いて仕事を行えるよう、閉庁日やゆとりの日の設定の仕方について検討の必要がある。 ・ゆとりの日の設定を考慮する。 ・学校閉庁日の設定を考慮する。</p>